

8. 丘の公園入口遺跡

所 在 地 高根町清里念場原3545-697

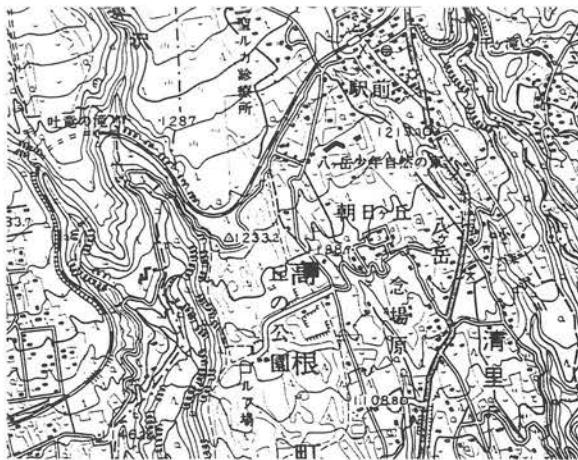
調査原因 町道下念場朝日丘線拡幅工事

調査期間 平成10年8月19日～8月25日

調査面積 300m²

調査主体 高根町教育委員会

担当者 雨宮正樹



当遺跡は、八ヶ岳南麓の標高約1,180mを測る高原に位置し、南北に延びる尾根状の台地上にはいたる所に流山状の小山が分布している。この流山の発達した南に面する傾斜地に遺跡は所在した。

この付近一体には小規模な遺跡が点在している。特に丘の公園地内には4カ所が公園造成に先立つ試掘調査により確認され、2カ所が発掘調査を行っている。近年では清里有料道路に伴う発掘調査が行われ、旧石器時代及び中世の落とし穴が検出されている。

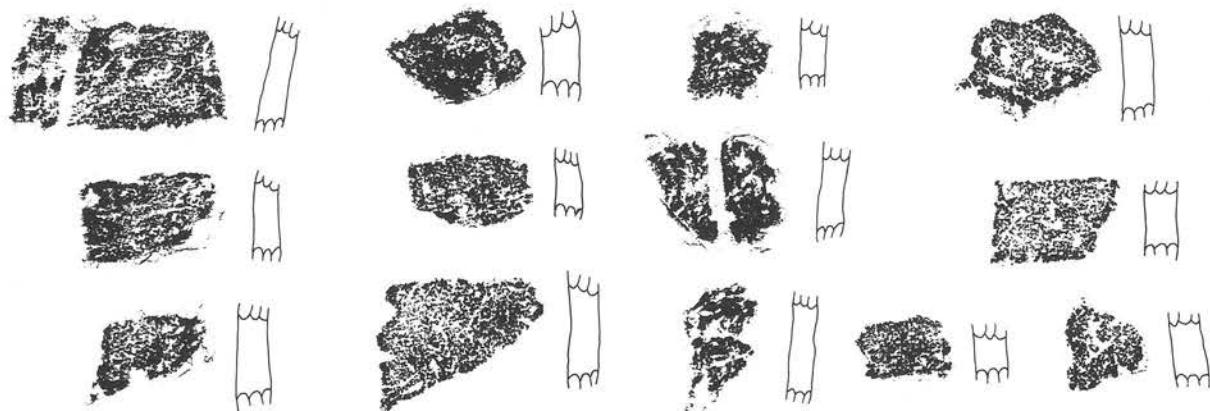
この遺跡が所在する尾根状の台地には、縄文時代早・前・中・後期、弥生時代後期、古墳時代後期、中世、近世など複数の時代の土器が出土している。

調査区域は、既存道路の拡幅部分のみであるため非常に細長く、試掘調査の段階ではこの区画の中のほぼ真中より遺物を確認することができた。

現状では当地域は牧草地として利用されており、現況の地形としては、比高差約6mを測る小山が西に連なり防風林帯、通称風きりと呼ばれ、東は現況の道路により斜面が縦断されてはいるが、比高差約5mを測る切り通しなっており、拡幅される場所一帯はテラス状に張り出した所といえる。

この面の表土を重機により遺構および遺物を確認しながら除去を行ったが、施工上の関係から排土を予定工区内で処理するにあたり、4回の排土移動を行わなければならなかった。その結果用地内のほぼ真中に隠れ沢が存在し、人頭大以上の礫が混入している状況が検出された。

出土している土器は、小破片化し、耕作等により摩滅を受けているため図示できるものは下図のとおりであるが、縄文時代早期の様相を呈するものと思われる。



丘の公園入口遺跡出土土器実測図